

## 暑熱耐性スリック牛の生産性の検討

夏季の高温は、乳用牛では乳量減少や妊娠率低迷をもたらし、酪農経営に多大な影響を及ぼしている。そのため、暑熱対策は重要課題となっているが、今後ますます気温の上昇が想定されているため、従来の対策に加え、新たな視点からの対策が求められている。

そのような中、令和3年から暑熱耐性遺伝子（スリック遺伝子）を保有した凍結精液が国内で販売開始されているが、日本の飼養環境における特質や生産性はまだ明らかになっていない。

そこで

令和8年度から、大分県内でスリック牛を飼養した際の暑熱ストレス軽減の程度や生産性への影響について検証する。

## 【研究のポイント】

## スリック遺伝子の特徴

- ・カリフ海に浮かぶセントクロイ島原産であるセネポール種から発見。
- ・薄く、短く、艶のある被毛へ変化させる。
- ・発汗能力が優れており、呼吸数が少なく、体温調節機能に優れる。
- ・夏場の乳量低下が少ないとの報告。（海外）
- ・50%の確率で発現する遺伝子。



スリック牛(頸部被毛)

## ＜研究計画＞

- ①スリック牛の生産（R8～9）
- ②スリック牛（育成牛）特質検証（R8～10）
- ③スリック牛（搾乳牛）生産性検証（R10～13）
- ④スリック牛（乾乳牛）生産性検証（R12～13）

## 【関係者の声】

現在の非常に厳しい酪農情勢の中、夏場の暑熱対策は大変重要なファクターとなっている。

暑熱耐性遺伝子は、厳しい夏場においても、乳牛がその能力を最大限に発揮できることが期待されているが、現時点では日本国内での泌乳成績などの生産性は十分に判明していない。

そのため、日本の環境下での研究が必要であり、今後研究によって、この暑熱耐性遺伝子が日本の酪農現場において、いかに有効に機能するか明らかにされる事を、心から期待している。

（大分県酪農業協同組合 酪農部長（兼）業務部長  
釘宮 修 氏）



## 【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター畜産研究部 酪農チーム  
TEL：0974-76-1214（問合せは企画指導担当へ）  
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8